

動画生成 AI はすごかった

佐藤 聖

やってみた…革新的な技術だと実感

● トライすること

ズバリ、動画生成 AI でミュージック・ビデオの演出効果を格段に高めることができます。生成 AI 技術を使った動画表現に触れるたびに、その革新性と美しさに感動しました。まるで魔法のような動画の変化に驚かされ、「これが未来の動画制作だ!」と感じました。

視聴者の目を引きつける動画を作り出し、新しい可能性を広げます。従来の CG 制作は専門知識や技術が必要でした。動画生成 AI では、そのプロセスを大幅に簡略化し、誰でも高度な動画表現を実現できます。

● アイドルの画像を拝借した

今回は、ミュージックエンタープライズより特別にご提供いただいた画像 (図1) を利用して動画生成に挑戦します。



図1 生成 AI への入力画像

写真提供: ミューズエンタープライズ

モデル: YURINA MASUDA (Y3K ガールズユニット: MEMORI)

<https://www.muse-enterprise.com/memori>

動画生成 AI ツールの選択

最新技術やハードウェアをすぐに利用できるオンラインの動画生成サービスを選択しました。代表的な動画生成サービスには、KaiBer, Genmo, Pika, Pictory, Runway がありますが、執筆時点でリアル系動画の品

質がトップクラスの Runway を選びました。ちなみに PC なら、Stable Diffusion WebUI Automatic1111 など をインストールしてローカル環境で動画を生成できます。それぞれの特徴は表1の通りです。

著作権、利用権は必ず確認

Runway で生成する画像や動画は、ビジネスでも利用できます。公式ページの「Runway で作成したコン

表1 動画生成についてウェブ・サービスとローカルの比較

項目	環境	動画生成サービス	WebUI などのローカル環境
想定利用者		頻繁に異なるプロジェクトに取り組む人。短期間での開発を求められる人	プライバシーを重視する人。作業効率が重要と考え、ワークフローで効率的に処理したい人
特徴		インターネットに接続すればすぐにサービスを利用できる。サービス提供者によって機能追加やバグ修正が行われる	ソフトウェアやハードウェアを自由に組み合わせることができる
利用条件		サービス提供者によって商用利用や非商用利用の条件やライセンスが明確に分かる	ユーザが商用利用や非商用利用の条件やライセンスを個別に確認する
メリット		高品質な動画生成を手軽に始められ、プランを選択でき、無駄がない。サービス利用で問題が起きてもユーザ・サポートの支援を受けられる	独自の動画生成ワークフローを構築できる。一度ハードウェアを購入して実行環境を構築すれば、後は電気代しかかからない
デメリット		使用料に応じた料金が発生する。常時、インターネット環境が必要	ハードウェア購入費用や初期設定、高品質な動画を生成するためには技術や知識が要求される。ソフトウェアのアップデートには知識と時間を要する